



サビエルと十字架

「サビエル展を開催して③」

我が家の祭壇の壁に「ほほえむキリスト」として知られる十字架像の顔の部分の写真を飾っている。



展示したサビエル城の全景

この十字架像はサビエルが生まれたサビエル城の家族のための小聖堂の正面に掛けられている。七年前、スペインのサビエル城を訪れた時に見たが、木彫

りの彫刻で光線の具合によってキリストがほほえんで見えることから「ほほえむキリスト」として知られるようになった。

サビエルはサビエル城主の三男二女の末っ子として一五〇六年に生まれた。敬虔(けいけん)なキリスト者の家庭の中で、小さいころから小聖堂のほほえむキリスト像の前でよく祈っていたという。

小さいころの家庭環境は子供に大きな影響を与えるといわれる。サビエルは自分が住む空間に小聖堂がある環境に大きな影響を受けたに間違いはない。

このシリーズの第一話で、サビエルの「十字架上のキリストへの祈り」を紹介したが、小さいころからごく自然にキリストへの祈りが生まれたことは想像にかたくない。このほほえむキリス



ほほえむキリストの十字架像

ニが海に消えた十字架をハサミにはさんで海中から現れ、サビエルに十字架を届けると、再び海に姿を消したという。そして今でもこの地方では甲羅に十字の

模様が有るカニが息し「サビエルのカニ」と呼ばれている。このカニのはく製は山口市のサビエル記念聖堂一階の博物館にも展示してある。

私も首に十字架をつけているが、どうもアクセサリーの域を出ておらず、もう少しサビエルが信じた十字架上のキリストへの信仰に生きねばとサビエル展を開催して改めて思ったのである。

トの十字架像であるが、一五五二年にサビエルが中国の上川島で死去した時、キリストの目から涙が流れ出たといわれ、スペインにいたサビエルの姉はその涙を見て弟の身に何か異変があったことを察知したという。とにかくこの十字架がサビエルにとつて大きな存在であったことは間違いないだろう。

「東洋の使徒」と呼ばれるサビエルは最初から日本を目指したわけではない。南インドのゴアを拠点に、遠くは現在のインドネシア東部まで宣教した。モルッカ諸島に出かけた時、激しい嵐に襲われたサビエルは首にかけていた十字架をはずして海に浸し、神に祈った。その時、十字架のひもが切れ、十字架は波の中に消えてしまった。

幸い暴風は静まり、無事に目的地に着いたが、翌日、海岸を散歩していると、一匹のカニが来日のきつかけとなった。

人間イエスが十字架につけられ



サビエルのカニ(パネルから)